

令和3年度

第1回岩沼市総合教育会議

議事録

1. 招集日時 令和3年5月20日（木）午後3時00分
2. 招集場所 岩沼市役所1階 大会議室
3. 協議 市内小中学校におけるデジタル化の状況について
4. 出席者 菊地啓夫市長、百井崇教育長、佐藤雅晴教育長職務代理者
小林修子委員、南館公雄委員、氏家真由美委員
5. 出席補助職員
鈴木隆夫副市長、星幸浩総務部長、新妻敏幸市民経済部長
大元利之健康福祉部長、菅原伸浩建設部長(併)上下水道部長
大友康弘教育次長兼教育総務課長事務取扱、矢口晃参事兼学校教育課長
佐々木拓也生涯学習課長、遠藤大輔政策企画課長
加藤琢也副参事兼指導主事
6. 欠席委員 なし
7. 傍聴者 4名
8. 本会議の書記
山下真理子教育総務課主幹兼総務係長
9. 開会 午後3時00分
10. 閉会 午後4時35分
11. 議事録署名人
氏家真由美委員
12. 事務局職員
大友康弘教育次長兼教育総務課長事務取扱
山下真理子教育総務課主幹兼総務係長
13. 議事の経過
以下のとおり

大友教育次長兼総務課長事務取扱

只今より令和3年度第1回岩沼市総合教育会議を開会いたします。

はじめに、菊地市長より開会の挨拶をお願いします。

菊地市長

本日はお集まりいただき、ありがとうございます。大変難しい教育行政の中、皆様方から御意見をいただきながら、岩沼の子どもたちをしっかりと支えていきたいと思っておりますので、御協力よろしくをお願いします。

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、教育現場にも影響が出ております。世界中で大きな被害が出ており、各国で感染防止対策に取り組んでいます。日本においても大変厳しい状況で、特に深刻な都道府県に対し、緊急事態宣言が出されています。宮城県でも独自に緊急事態宣言を出し、皆様に自粛生活や飲食店の時短営業などの御協力をお願いしているところです。感染収束の先が見えないため、対策が難しいものになっています。昨日も県内で33名の感染者が出ました。最初は仙台圏に多かった感染者が、最近は近隣にも広がっており、油断できない状況です。感染者の90%が変異型ウイルスに置き換わっていることにも対策の難しさがあります。現在、宮城県では感染者数が一定の落ち着きを見せていますが、重点措置解除後の感染が再拡大しないよう、特に今月31日までを「リバウンド防止徹底期間」としております。

ワクチン接種を、岩沼市では4月21日にスタートし、4月26日28日には集団接種を実施しました。90代の方については、昨日、2回目の接種も終了し、今後は順次若い年代の接種を進めていきます。まずは、85から90歳の方の接種について、インターネットと電話の併用で予約受付が始まりましたが、受付初日の電話は大変混み合いました。確実に接種できますので、慌てずに予約していただきたいと思います。5月31日からは、市内医療機関において個別接種もスタートします。政府からは、高齢者向けのワクチン接種を7月末までに完了させるように指示がありました。これを守ることが感染防止の近道だと思いますので、目標をクリアするよう頑張ってくださいと思います。

GIGA スクール構想に基づく、小中学校のICT化を進めております。おかげさまで、児童生徒1人1台のタブレット端末整備が完了しました。これからはICT機器を使用した教育が主流になるとと思いますので、先生方にも御協力いただき、活用についてもしっかり取り組んでいきたいと思います。

学校の感染予防には、万全の策を取っていきたいと考えて取り組んでおります。昨年度、自動水道蛇口の設置、体育館に換気システムを取り付けました。今後、万が一、学校を臨時休業することになっても、自宅でタブレット端末が活用できるように、慣れていってほしいと思っています。教育委員会と連携して、対応させていただいております。

学校施設の整備についてですが、現在、総合体育館を休館にしています。令和3年2月13日の福島県沖地震により大きな被害を受けたため、国の査定を待つだけ早く修理し、使えるようにしたいと思っています。総合体育館を会場として予定していた、3月11日の東日本大震災追悼式は、玉浦中学校の体育館に変更しました。その後、3月20日にも地震が発生し、落下物もあったために、しっかりとした修理が必要な状況です。

朝日山公園の野球場とテニスコートの全面改修をしました。3月には既に完成していたのですが、緊急事態宣言下において公共施設利用の制限をしておりました。5月15日、16日に使用開始とし、大変喜ばれている状況です。今まで厳しい状態でしたので、ようやく正常に戻った感じがしております。

教育の課題としては、不登校の問題があります。岩沼市も宮城県全体としても、不登校の児童生徒数が多い状況です。県と一緒に対策に取り組んでいきたいと思います。

学級の人数について、文部科学省は30人学級を求めていたようですが、財務省とのやり取りで35人学級に落ち着いたようです。5年をかけて、小学校の全学年が35人学級になることが浸透していくのだと思います。

ヤングケアラーの話題が取りざたされています。子どもが家族の世話のために、学校生活で支障が出ている状態は大変問題です。今年度、初めて厚生労働省と文部科学省による実態調査が行われ、対策しようという動きがあります。岩沼市においても、そのような状態の子どもたちを把握し、支援していきたいと思います。今後、対策を考えていく必要があると思っています。

日本の総人口が減少している中、特に子どもの数が40年連続減少しており、大変厳しい状況です。国を挙げて、人口対策に取り組み、少子化に対する有効な手を打つ必要があります。現在の出生率1.3人という値をできるだけ上げていかなければなりません。知恵を出し合いながら、安心して産み育て、教育できる環境づくりをしていきたいと思っておりますので、御協力よろしく申し上げます。

御意見を伺いながら、より良い教育環境づくりをしていきたいと思っておりますので、よろ

しく願ひします。本日はありがとうございます。

大友教育次長兼総務課長事務取扱

続きまして、教育委員会を代表しまして、百井教育長より挨拶をお願いします。

百井教育長

本日は、お集まりいただきありがとうございます。私から 2 点お話をさせていただきます。

1 点目は、小中学校のコロナ感染対策についてです。今まで、子どもたちにも若干の感染者が出ておりますが、保護者の御協力により、家族に感染疑いがある段階で、早めに学校を休むことが徹底されているために、臨時休業になるような直接の影響は出ておりません。今後も保護者の皆様方の御協力をいただきたいと思います。

2 点目です。GIGA スクール構想に基づく ICT 機器の整備を、昨年度より 1 年をかけて行ってきました。これからは利用の段階になります。岩沼市は、他市町村に比べて教員の ICT 機器の利用率や活用レベルは高いという自負があり、また、子どもたちの中には教員以上の力量を発揮している子も出てきています。今後は、子どもたちと教員が使いながら、共に伸びていくものと思います。更に充実したものになるよう、御意見をいただきたいと思いますので、本日はよろしく願ひします。

大友教育次長兼総務課長事務取扱

それでは会議に入らせていただきますが、総合教育会議の議長は、運営要綱第 4 条の規定により、市長が務めることになっております。ここからは菊地市長に会議を進めていただきたいと思います。なお、協議事項は「市内小中学校におけるデジタル化の状況について」でございます。あらかじめ、設備面の資料につきましては送付させていただいておりますが、本日は、学校現場における学習活用状況を中心に、準備しておりますタブレットを使いながら進めて参りたいと思います。

それでは、よろしく願ひいたします。

菊地市長

規定により議長を務めさせていただきます。はじめに、議事録署名員を指名させていただきます。今回は氏家委員に署名をお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

構成員

異議なし。

菊地市長

議事録の署名は、氏家委員にお願いいたします。

本日の会議は、「市内小中学校におけるデジタル化の状況について」皆様と意見交換をしたいと思います。

まず、事務局から、教育委員会の対応について説明してください。

矢口参事兼学校教育課長

それでは、市内小中学校におけるデジタル化の状況について、報告いたします。

岩沼市では、以前よりタブレット端末と Wi-Fi 環境を少しずつ整備して参りました。まず、平成 24 年度から教員用タブレットの配備を始めました。この動きは、他自治体には無い、先進的な動きだったと思います。

今回、文部科学省の GIGA スクール構想に基づき、児童生徒へ 1 人 1 台のタブレット端末配布と高速ネットワーク環境の整備を行い、今年の 2 月には、家庭への持ち帰りを含め、本格的な活用を進めております。昨年度中に環境整備を終え、活用が始まったことは、他市町村でもあまり例がなく、GIGA スクール構想についても岩沼市は早い取組をしていると感じています。

整備面だけでなく活用面においても、市内小中学校がひとつの方向性を持ち、整備完了後の早い段階で進められるように、活用におけるビジョンを構想して参りました。それを「まなび i スクール構想」と名付け、「協働的に未来を創造する児童生徒を育む」という学校づくりを目指しております。このテーマの元、各学校で授業実践をスタートさせました。

詳しい実践事例をお話いたします。まず、岩沼西小学校第 6 学年の総合的な学習の時間で行った事例です。岩沼市の未来について SDGs と関連付け、一人一人が課題を設定し、調べ、まとめ、発表する活動を行いました。この授業では、ロイロノートというクラウドツールを活用いたしました。このツールは、調べるだけでなく、まとめることや友達の意見を参考にして自分の学習に活かすこともできます。タブレットを持ち帰り、クラスで行った発表を、家庭でも発表しました。保護者から感想コメントをもらうことが子どもたちの励みや新たな気づきにもなり、効果的な取組になったと思われま

次に、岩沼中学校数学科の取組を紹介いたします。ドリル教材「タブレットドリル」を授業の導入で使用しています。また、授業のまとめとしてデータでレポート提出させ

ています。これらのことは、とりまとめが簡単にでき、成績物の累積がコンパクトにできることが利点と考えられます。

家庭での学習においてもタブレットドリルに取り組みさせており、学習履歴を学級担任が把握することで、個別支援に活かしています。

他にも中学校全学年と小学校5年、6年に英語のデジタル教科書を使用しております。現在、国では、デジタル教科書の今後のあり方について議論されておりますが、岩沼市では先行的に導入し、授業実践をしております。

また、教職員の校務においては、毎日の欠席確認、保護者へのアンケート調査をメールで依頼して自動集計するといったことに活用しています。

それでは、本日、タブレット端末を用意いたしましたので、委員の皆様にはタブレットドリルやデジタル教科書の体験をしていただきたいと存じます。

加藤副参事兼指導主事

【デジタル教科書（指導者用・学習者用）、タブレットドリル、ロイロノートについて
実演、説明】

教育委員会では、ICT活用研修サイトを作り、先生方が時間のあるとき学んでもらえるように準備しています。このサイトでは、教員として知っておくべきこと、グーグルのドリル、アップル社のツール等をひとまとめにし、先生方が使いやすいようにしています。先生方には、ICT機器を活用して、保護者や子どもたちと繋がっていただけるようになってほしいと思います。

矢口参事兼学校教育課長

今後も授業や校務での活用を推進していくために、学びiスクール構想に基づき、推進チームを立ち上げました。月1回の研修会で実践情報の共有を図っていきます。

現在使っているタブレット端末は、やがて新しい物に変えなければいけない時期が来ます。そのときにどのようなやり方で更新するのが良いのか、今から検討する必要があると考えております。

菊地市長

先生方と同じ目線で授業風景を見させていただきました。ありがとうございました。今後は、先生方が横の連携をとりながらレベルアップしていくことが課題になるのだと思います。子どもたちがタブレットに早く馴染むと良いと思います。保護者の意見も知

ることができるツールになるという新たな気づきもありました。

小林委員

デジタル教科書などを体験させていただいて、素晴らしい中身だと感心しました。気になるのは、ICT 分野に長けている先生が各学校に何人いるのかということです。そういった先生を増やす工夫が必要になると思いますし、現場の先生に対して支援する人が必要だと感じました。先生方の働き方改革が進められている中、ICT 機器を習得するのに時間をもっと必要になります。今後の教育に不可欠な物ですので、先生方が授業で活用していくためには、人の支援がどの程度できるかが大事になると思います。

菊地市長

機器は次々と発展していきまますし、先生方には負担をかけると思います。先生方が子どもたちをしっかりと指導するためには、支援する人が必要だと改めて感じました。今後をしっかりと見ていきたいと思っています。

佐藤職務代理者

タブレットを使う学習内容にとっても感動いたしました。教育には「学識を深めること」「社会性を身につけること」の2面があります。ICT 機器の活用により、学識を身につけ、先を見越した予習ができることは素晴らしいことです。見る中身について、学年毎にばらつきがあってはいけないのではないかと思います。各学年が普遍的に見て学習できるようなものを準備する必要があると思います。

万が一、休校にならざるを得ないとき、学習の質を確保すると同時に、社会性を身につける事を補完することについて考える必要があるように思います。そのためには何が必要か、生涯学習的な視点からの裏付けを考えておく必要があると思います。

子どもからの質問や感想に対して、先生方の返信作業を勤務時間内にできるものでしょうか。家庭に持ち帰ってフォローするようになっては問題です。働き方改革を進めている中、どのように進めていくのが良いのか、専門家の意見を聞きながら、バランスを取っていく必要があると思います。

菊地市長

先生方が前向きに取り組めるように、サポートしていくことが必要だと思います。先生方に負担がかかるのでは、という思いがありますが、教材として上手く活用していくために見方としてはいかがですか。

矢口参事兼学校教育課長

教職員を慮っていただきありがとうございます。何かを習得するには、最初の内は時間がかかることは仕方のないことだと思います。その時間をなるべく短くするように、各学校の先生方が月に1度集まって情報共有をしてノウハウを身につけ、それをそれぞれの学校に広めていくことを定例的に行っていきたいと考えています。また、ICT支援員も配置していただければ嬉しく思います。

菊地市長

トータルの指導してくれる人がいれば変わってくると思います。行政もデジタル化することが求められています。課題は多く、全てを市職員が実施するには、ハードルが高いと考えられ、今年度、民間から一人招いて進めています。学校もそのような形が必要になるのかもしれませんが、子どもたちの受け入れ方や先生方の負担を教育委員会で見て行ってほしいと思います。教育委員会で議論していただいて、私の方でサポートさせていただきたいと思います。

南館委員

今日は貴重な体験をさせていただきました。ICT機器を使った授業を担当の先生だけで実施するのは大変なことだと思います。対策としては、支援の先生を増やすのが良いとは思いますが、なかなか難しいのかもしれませんが。

子どもたちの中からも、できる子が周りの子に教えるようになってくると思います。道徳に繋がる面がありますので、人のために教えてあげることが大事だという指導についても考えていただきたいです。岩沼市で進んでいるICT事業に加えて、道徳面にも力を入れることで、とても良いまちになると思います。

菊地市長

今はグローバルの時代です。子どもたちが最低限身につけるべき形を教え、経験を上手く積み、自分で学習するきっかけになると良いように思います。

3. その他に移ります。今感じている課題などをお話しいただければと思います。

小林委員

不登校対策として、岩沼では勤労者活動センターの一部をお借りして「あいるーむ」を開設しています。こちらは運動する場所もあり、場所的に素晴らしいところだと思います。この施設を丸ごと教育委員会で使わせていただくことはできないでしょうか。そ

うなれば、「あいる一む」だけでなく、社会教育でも使うことができるように思います。

新妻市民経済部長

勤労者活動センターを建てるにあたっては、厚生労働省のお金が使われているために、その趣旨に基づく使われ方をしなければなりません。現在の「あいる一む」は、許可をもらって趣旨と異なる使い方をしています。この施設を自由に使えるようになる時期はもう少し先です。その際には、教育委員会と相談して良い方向を考えていきたいと思えます。

菊地市長

勤労者活動センターは、設置したときの縛りがあり、施設の性質を変えることはもう少し時間が必要です。教育委員会と連携しながらやらせてほしいと思えます。

氏家委員

感染状況により休校になってしまった場合を想定し、子どもたちや保護者へ、タブレットを活用した学習等のシュミレーションを事前に示していただけたいと思えます。

矢口参事兼学校教育課長

臨時休業になった場合を想定して、既に準備を進めています。例えば、5月18日に岩沼北中学校において、帰りの会を帰宅後にオンラインで実施することを試してみました。結果は、どこの家庭も問題なく繋がることができました。このような内容を、横の繋がりで他校にも広く伝えあい、各学校でさまざまな方法を模索しております。

菊地市長

コロナ禍では、再び臨時休業になることも考えられます。その際には、教育委員会と連携し、子どもたちの学習に影響が出ないように努力するしかないと思えます。

南館委員

ヤングケアラーについて、岩沼市の小中学校でも調査していただいたところ、少数ながらも、その傾向がある児童生徒がいることが分かりました。今後も調査を続けていただきたいと思えます。家族の世話のために進学や就職を諦めてしまうような子について、対策を考えておく必要があるように思えます。

矢口参事兼学校教育課長

前回の教育委員会定例会での御意見を受け、ヤングケアラーの調査を行いました。調

査対象は全学級担任で、既に把握している情報や日頃の子どもたちの様子から回答を得ています。回答 115 件のうち、疑いを含み、ヤングケアラーの児童生徒数は 16 人、市内小中学校児童生徒数の 0.46%に当たります。厚生労働省と文部科学省で調査した全国の様子は、中学 2 年生 5.7%、高校 2 年生 4.1%ですので、岩沼は少ない値ではありますが継続して見ていかなければいけないと思います。ヤングケアラーの世話の内容としては、兄弟の世話や家事が多く、子どもたちの学校での様子は、持ち物の忘れ物が多く、提出物の遅れや忘れが多い状況です。福祉部局とも連携して対応を模索し、取り組んでいきたいと考えております。

菊地市長

国もヤングケアラーの問題に動き出したばかりの段階です。近い将来、制度化する方針が決まりました。孤立や孤独になる児童生徒がいることは問題ですので、国の考えを早く示してほしいと思っています。市内でそういった問題があれば、市の福祉部局と教育委員会で連携し、早めに支援の手を差し伸べていきたいと思っています。

佐藤職務代理者

本日は素晴らしい体験をさせていただきました。デジタルの時代、バーチャルリアリティの世界で職を得たり、仲間を作ったりすることもあるように思います。

ヤングケアラーの問題は深刻なことだと思います。4月17日の河北新報社説で、ヤングケアラーについて記載されておりました。国の調査結果によると中学生より高校生の値が低くなっています。このことから、ヤングケアラーの子どもたちの中には進学を諦めている子がいるのではないかと思います。今まで、不登校とヤングケアラーの関わりは注目していませんでしたが、今後はその視点も入れて考えないと中途半端になってしまうように思います。先日のNHKの特集番組でも、家族の世話を担っている子が17.1%いると放送されていました。岩沼市教育委員会としても関心を持つ必要があるように思います。学校教育の中で、先生が家庭の中に入ることは難しいことなので、スクールソーシャルワーカーを増員して教育環境の改善をしていけると良いように思います。

百井教育長

子どもの学びは日常の生活と繋がっています。家庭の状況が個々に違う中、学校の権限だけでは入っていけないところがありますので、各部局と連携を取りながら進めて参りたいと思います。子どもたちが喜んで学べる環境を作っていくことが教育委員会の仕

事なのだと思いますので努力していきます。

ICT 機器の活用と教職員の働き方の関係については、更に深く考えて対応していきたいと思います。教員も子どももそれぞれが社会生活を営み、そこに学校がありますので、一方の負担になるのではなく、全体で支える環境を作っていきたいと思います。岩沼では ICT 分野に強い職員を集めていますが、職員同士がお互いに情報共有して深めていき、授業に反映できるよう努めていきたいと思います。本日はありがとうございました。

菊地市長

その他、無いようでしたら、本日の会議はこれで終わりたいと思います。

大友教育次長兼総務課長事務取扱

熱心な御議論、お疲れ様でございました。

以上をもちまして、令和 3 年度第 1 回総合教育会議を閉会させていただきます。

(午後 4 時 35 分閉会)

この議事録の作成者は、次のとおりである。

教育総務課主幹兼総務係長 山下 真理子

上記記録の正確なることを認め、ここに署名する。

令和 3 年 6 月 24 日

議事録署名人 氏家 真由美